

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度第7回八千浦区地域協議会

## 2 議題

### 【報告事項】

保倉川放水路の現状について（公開）

## 3 開催日時

令和3年3月17日（水）午後6時30分から午後7時41分

## 4 開催場所

八千浦交流館はまぐみ 多目的室

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 仲田紀夫（会長）、大島 進（副会長）、伊倉幹夫、笠原 武、  
笠原幸博、坂詰喜範、関川信之、羽深栄一、平野和夫、柳澤 篤、  
渡辺孝三郎、渡邊修一
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、  
霜越会計年度任用職員  
高田河川国道事務所：森田副所長、宮本調査第一課長  
河川海岸砂防課：中村課長、加藤係長

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【仲田会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：大島副会長、笠原武委員に依頼

議題【報告事項】保倉川放水路の現状について、担当課へ説明を求める。

【河川海岸砂防課：中村課長】

・挨拶

今までの経過について簡単に説明させていただく。

平成7年の豪雨災害を経て、平成8年に放水路の当初のルート公表があった。平成9年には河川法の改正があり、河川整備計画をしっかりと作り上げていき、知見を集めて進めていくという、進め方の大きな変更があった。その後、国で河川整備計画の検討、作成作業に入り、平成21年ようやく関川水系河川整備計画に「保倉川放水路」が記載された計画が策定された。そして、平成26年に河川整備計画を再点検するという流れになり、計画そのものの見直しも含めた再点検をして検討に入った。その結果、平成29年7月に、この地における治水対策の方法として放水路が最適であるという検討結果が関川流域委員会という国の諮問機関から出た。

平成30年に地域住民の皆さんに説明をさせていただき、平成31年3月に概略ルート帯で放水路をどこに造るか検討した結果を地元の皆様にお示しし、ようやく現地調査に入ったところである。そして、昨年12月末に第20回関川流域委員会が開かれ、概略ルート案が示された。

本日は概略ルート案の内容を中心に、お話させていただき、最後に今後の進め方についてご報告申し上げたい。

【高田河川国道事務所：森田副所長】

・挨拶

説明の前に現状について説明させていただく。

保倉川放水路については、放水路そのものが治水の方策として本当にベストなのかということに疑問をお持ちの人が大勢いらっしゃるのは事実である。しかし、全国的に見ると想定を超える豪雨が各地で生じていることに対し、当地においても同じ状況に置かれているのは事実と考えている。地域の皆様が安心して住める地域をつくるためには放水路案がベストだと私たちは思っている。これまで地域からも反対意見を出されていたが、とりあえず現地調査に入ることを認めていただき、調査結果に基づいて話を聞いていただくという状況にある。

ルートについてはBルートで決まったのかという話だが、そこはまだ決まっておらず、私ども事業者としてはBルートが1番良いのではないかと考えている。

関川流域委員会にもお諮りして幾つかルートが考えられているが、そこで出た意見について意見集約し、それに対してお答えした上で、ようやく委員会としても、どのルートが良いのか、あるいはBルートについて検討を加えるべきなのか、そういう意見も含めて意見をもらい、私ども事業者としても最終的に決定していく。今のところ、3月末の関川流域委員会後に事業者としてはルートを決定したいと思っている。ルートを決定した上で、放水路の用地や移転先、用水路はどうなるのか、排水はどうなのかということなど、ルートを決めることによって、より詳細な設計が効率的にお示しでき、地域住民の皆さんの不安を解消できるという思いで進めている。地域協議会へも説明をさせていただき、いろいろな意見を幅広くいただきたいと思っている。そういった意味で、皆様の率直な意見をこの場でいただければ大変ありがたい。

**【高田河川国道事務所：宮本調査第一課長】**

- ・資料「清流通信川ツちゅ」に基づき説明

今後の予定を少し説明させていただく。

第20回関川流域委員会が12月に開催された。それを踏まえて住民説明会を2月22日から夷浜を皮切りに開始している。それを3月下旬くらいまで行い、その結果をまとめて第21回関川流域委員会を3月末に開催し、そこで意見をいただくという予定である。

令和3年度以降さらに詳細なルートの検討を進めるが、検討を進めるにあたり、河川法の法定計画である河川整備計画という計画を変更しなければいけない。その時も随時関川流域委員会を開催しつつ、流域住民の方々から意見をいただく場があり、そこでも意見も踏まえて河川整備計画を変更していき保倉川放水路の詳細なルートを決定していくという流れで考えている。

**【河川海岸砂防課：中村課長】**

少し補足させていただく。今後の進め方の中にまちづくりの検討がある。具体的なことはこれからだが、川が切れると分断が生じるが、橋をどのように架けるか。そして、その橋までどのように道路を繋げていくかが非常に大事な話になってくる。

また、移転される方々の受け皿を代替地として確保していかなければならないと考えている。そういったことを市が積極的に窓口となって地元の皆さんと意見交換をしながら進めていきたいと考えている。意見聴取は3月28日まで設けているが、3月30日に次の関川流域委員会を開催し、地域の皆様方からいただいた意見と対応策を関川流域

委員会で検討する進め方になる。

**【仲田会長】**

説明に対し、質疑を求める。

**【渡邊修一委員】**

いろいろなルート調べてあると思うが、資料を見るとBルートが中部電力の送電線がある地下洞道の近くを通るように見える。これは微妙なルートではないか。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

おっしゃるとおり、Bルート案は地下洞道に近くなっているが、資料の丸で囲まれている部分が放水路の全幅というわけではなく、200mの中でさらにどこまで狭めるかを考えており、できるだけ地下洞道には近接しないようにと考えている。ルートを検討するにあたり、その対策も考えないといけないと思っている。

**【渡邊修一委員】**

中部電力も理解しているかと思うが、株式会社JERAへも話をしてあるのか。敷地近くに水を出すような形ではないか。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

株式会社JERAには話をさせていただいている。

また、地下洞道の話と出口付近の港の施設、護岸やブロック等への影響という面での指摘かと思う。お手元の委員会資料の15ページに地下洞道の縦断図がある。地下洞道は地表から10mぐらいの位置にあるが、私どもは10メートル下まで掘る予定はない。田んぼでイメージをすると、田んぼの高さよりも大体5メートルぐらい下がる。標高でいうと、マイナス2、3メートルぐらいのところになる。そういったところを川底の高さのイメージにしている。ただ非常に地盤がやわらかい部分もあり、土砂を取ると浮き上がってくる可能性もある。その浮き上がりの影響がこの地下洞道に及ばないかどうか、あるいは鉄塔も近くを通るので、そこへの影響がないかどうかも検討しながら必要な改良を加えて進めていくとイメージしている。定量的な部分は、これから行う予定だが、いずれにせよ影響がないように施工するという考え方でいる。

地下洞道への影響については皆さんもご心配されることだと思うが、「必要な対策はやっていくのでご安心ください」というのが私どもの見解である。

河口部の話だが、川の流れは流速3、4mで海のほうに流れ込んでいる。その流れに対し、波の冬期風浪で波が砕けて護岸に負荷がかかるが、設計上の外力がかかったりす

る。波消しブロックは逆に川の流れより波の流れのほうが遥かに強く、その辺は施設についての影響は川底がずっと深掘れして、矢板の安定性から言うと、倒れてきたり、変異が起こったりするかどうかをチェックすることになる。そちらは洪水中に最も掘れるが、そういったことのシミュレーションは一応行っており、そこまで影響はないという結果が出ている。

現在は概略的な検討なので、もう少し詳細に位置を決めると流れる水深も決まってくるので、もう一度チェックして影響がないようにするという考えである。

**【仲田会長】**

他にどうか。

**【関川委員】**

ほぼBルートで決まりだと思っている。技術的な話はプロがやるので、地域協議会で云々言いたいわけではないが、地域のことを考えると先が見えない。

今、いろいろ検討していると思うが、一体何年先に完成するのかを示していただきたい。これから30年先に出来上がるとなった場合、この場で議論しても何も進まないと思うので、大まかな予定で、いつ頃完成するかを示して欲しい。そうしないと地域づくりを考えることができない。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

この場で何年に完成するというのは申し上げられない。今ようやくルートを決めて、そのルートの中でいろいろな設計等、必要なことを検討し始めた段階であり、車に乗るとすれば、ようやく鍵をこじあけ、ドアを開けたぐらいのレベルである。そういう設計があって初めて必要な予算や、どこから始めたら効率的か等の手順を決める直前である。私どもは限られた予算があり、それをベースにしていく作業もある。私どもとしては「数年以内には着手できるように努力する」としか言いようがない。

**【関川委員】**

今、車を動かすのに鍵をいれた状態ということは、その車に乗ってどこかへ行こうと目的があると思う。分からないと言われても難しい。いろいろなことがあるのは立場上よく分かるが、イメージとして、これぐらいまでにできるぐらいかは言えないか。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

保倉川放水路にかかる金額は、どれくらいかご存知の人はいらっしゃるか。長岡の大河津分水路で年間50億円を超える予算がついており、完成が令和14年である。この

規模が工事を始めて完成まで14年かかる。工事を始めれば完成まで10年ぐらいはかかる。該当地は別荘地だったので、何とかご協力いただいたが、それでも3、4年ぐらいかかり移転していただいた経過がある。それを踏まえると10年から20年はかかるのではないかと考えている。

**【関川委員】**

大体分かった。結局、黒井から三田新田のほうまで道が繋がるという話が出てから、もう何10年も経っている。

**【笠原武委員】**

今、ルート案が出て、報告していただいたような検討は行っているが、手順としてどうなのか。例えば、川幅を掘る前に、まず移転をしなくてはいけないのか。その時、宅地、神社等を全てずらした上で工事は進むと思うが、その後、掘るまでにどのような手順を考えているのか。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

現状では何とも言えないが、まずは保倉川放水路にかかる人たちから移転先を見つけていただく。移転が完了したら、今度は、まちづくりの関係で出てくる道路を造り、残った人たちの生活に支障がないようにする。その後、掘削を始めたり、橋を架けたりする。それをどこから始めるか。そこは工事中でも放水路があって被害を軽減するということを考えると、高い土地のほうから、あらかじめ水を切り、田んぼ等に溜まった水を上水だけでも海に流れるような手順、もしくは水田が一番着手しやすいが、最初に掘って、そこに調整池みたいな形で1度水を溜めるという手順も想定できる。

工事中でも地域の皆様方に効果があるような手順も考えている。

**【笠原武委員】**

放水路のイメージだが、普段は保倉川から放水路に水が流れないと考えて良いのか。それとも最低限の水は流される状態になるのか。

今のルートだと、ちょうど火力発電所の岸壁の際に水が流れる。実は、あそこはもともと船出しの水路となっていた。ところが、冬の波で何回か埋まっている。そのため、県が数回掘削をしていたが、最後は諦めて掘削できないということで、今の水路を土砂で埋めている。普段、流れないと冬場は波の影響で埋まってしまうという状況が今まであった。何も水が流れなければ砂利が溜まり塞がってくると思う。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

笠原武委員がおっしゃったとおりである。例えば、常に水を流しておけば河口部に土砂が溜まる量が減り流れる。その時に下流を見ると、今度は水量が少なくなり、洪水の時は水位が下がるのは良いが、いろいろ分派するタイミングや、どのような水量になったらこぼれ始めるかはこれから検討する。年に1回とか冬の後の雪代水で恒常的に流れて、できるだけ川に土砂が埋まらないようなタイミングも見据えながら、越流する高さや普段の流量を見据えた越流の回数や時期といったタイミングで、その河口部にできるだけ溜まらないような配慮をしていきたい。

普段は、放水路のほうに水が流れず、防潮水門も今のところ考えていない。防潮水門がない場合は堰まで海水が入ってくる。

**【柳澤委員】**

放水路のイメージとして、流れていない時は海水で覆われると資料に書いてあるが、どのくらいまで海水が来ると想定しているのか。堰まで来ることは想定しているのか。放水路が海水で満たされると嫌がる人もいる。

また、潟川の水も流れるのではないか。潟川の水はどちらに流れると想定しているのか。新堀川のほうか、それとも保倉川の下流か。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

平常時は堰まで海水で満たされる想定をしている。潮が満ちている時は40cmぐらいのところまで来るが、その時に潟川に海水が行くかは、高さの関係等を見るとこぼれないと思っている。海水が潟川に行くということはないような構造にする。

**【柳澤委員】**

塩害も想定しているのか。弱電メーカーや医薬品メーカーもあるので塩害を嫌うところもあると思う。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

塩害は想定しているが、そこまでの情報をお示しできる設計すら持っていない。なかなか地元へ入れないこともあったので、心配事にきちんと答えられるように設計していきたいと思っている。

**【仲田会長】**

「八千浦交流館はまぐみ」もそうだが、火力発電所建設時の地域振興のプランがあり、平成8年に火力発電所建設に伴う八千浦地区のまちづくりプランがあった。市の見解であれば、このプランは生きているということで、周回道路が南北に走っており、北側周

回道路は一応終わった。南側周回道路は一部を除いて手つかずの状態である。それから、海岸の防風林も含めての有効活用とか、まちづくりの画がある。それを一読していただき、ルート決定後、移転先を確保するまでに、この放水路ができた段階では移転先も含め、この八千浦地区が、こういう形態になるというもの示していただきたい。これは放水路周辺だけではなく、特に海岸部に影響があるので、その辺をまず検討いただきたい。その検討段階では地域の活性化に非常に役立つので、地域の意見を汲み上げるような組織をまず作り上げていただきたい。これは、3月の関川流域委員会で意見を聞いた上で最終的に事業者である国が放水路のルートを決められた段階で、地元である夷浜が最優先になるが、近隣町内会、あるいは田んぼだとか防風林などの形状等も変わってくると思うので、その辺のまちづくりの素案と整合性が取れるような形で、是非ご検討いただき、そのための組織をお願いしたい。

そして、設計の段階ではないが、川幅ルートが決まってくると思うが、護岸をどうするか。先ほど矢板という話も出ていたが、護岸を矢板のような形で新堀川のような形態になるのか、あるいは堤防があるのか。それによってまちづくりの形態も変わってくる。当然、橋の形状や堤防の利用形態も変わってくると思うので、その辺は基本設計の前段で、是非お示しいただきたい。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

私のほうも、単なる洪水時に水を吐くだけの放水路というイメージではなく、それ以外の日に放水路の空間で遊んだり、賑わいを演出したりするようなまちづくりもイメージしている。それは私どもで出来る部分と、造った後の利用の維持管理も含めたスキームも作らないと造った意味がなくなるので、その辺も含めて、仲田会長が言われたように地元の意見を聴き、まずは、たたき台を相談させていただき、その施設を生かすスキームも地域の皆様と一緒に考えていきたいと思っている。

**【仲田会長】**

市からは何かあるか。

**【河川海岸砂防課：中村課長】**

火力発電所建設時の地域振興のプランは承知している。本年度まで北側周回道路を造っていて、ようやく開通した。南側周回道路はBルートのところで止まっており、そこから先は手つかずの状態である。

今後の進め方として、ひとまず放水路のルートを決めて、今後はまちづくりとセット



になって考えていかななくてはならないということで、周回道路の整備は一度この状態でしばらく止まる。一方で放水路による家屋移転では代替地に移転する段階では道路もなくてはならないし、ライフラインもできていないといけない。それでやっと立つので、そこで一つのある程度のまちの形が見えてくると思う。そのために、地権者の方々との交渉も始まるし、そういった絵姿を変えていくにあたっては、地域の皆さんがどのような考え方を持っているか話を聴きながら進めていかななくてはいけないと思っている。

今の話は移転絡みの話であり、西ヶ窪浜や遊光寺浜の皆さんは、分断されてくるので、当然、橋のこともあるし、今は夷浜の町内分断を解消しようという意味で、法線はBルートが一番良いだろうという話であるが、道路網などを考えた時は、一町内に限らず広い範囲で意見をいただかなくてはいけないと思っている。その際に我々は、どういった組織に相談を申し上げるべきなのかは、これから考えていきたいと思う。

#### 【平野委員】

橋の話が出たが、国道8号だと道路よりどのくらい高くなるのか。あるいは新堀川のように平らなのか。

#### 【高田河川国道事務所：森田副所長】

詳細なイメージの数字は持ち合わせていない。水田を基準に考えると、洪水時の水位は水田の田面よりも高くないイメージでいる。それに堤防の余裕高として土を大体1、2mぐらい盛る。それがずっと水田の高さで盛った土がきて、そこに国道8号の高さが同じぐらいになる。今のお話の水田の一番低い浮島の北側あたりが標高で2m弱くらいである。そこに一番上のところに水位を設定して、余裕高が1、2mのイメージで、標高で4、5mが目安である。それで、国道8号の辺りは、4、5mだからちょうど国道8号の橋げたをかける分だけ高くなる。そうするとその乗り入れができなくなると、側道ができるのか、またそこまでせずに嵩上げすれば何とかなるのかは、非常に専門的で、実際に画を描いていかないと分からない。

#### 【仲田会長】

他に何かあるか。

#### 【大島副会長】

川を造ることによって分断するだけではなく、まちづくりという話が仲田会長から出た。普段、川の水が流れない時は堰まで海水が来ると言われたが、海中生物が川の際まで来るのか。直江津は中部電力のところに有料の釣り場があるが、県外の人で賑わって

いる。もし、堰まで釣り堀になれば外から人を呼ぶこともできるし、地域の活性化にも繋がると思った。

生物や魚がいれば鳥なども変わってくると思うので、それも調べていただけたらと思う。

**【高田河川国道事務所：森田副所長】**

河口部の状況によって、海水になったり、海水が満ち引きによって入れ替わったりする状況になるとは思っている。だが、例えば、津波を考えた時に遡上して田んぼへの影響はないのかとか、想定される最大規模クラスの津波になると、どうしても浸水が発生する。放水路を造るがゆえに、それをかなり心配されている人もいらっしゃる。我々は、土木構造物の設計上、それに対応するような設計は考えなくて、逃げてください、あるいは逃げ場所を作ります、というのが設計論である。それでも何かやってくれとか、放水路を造らせない、というのもありだと思っている。その方々にも答えを用意しなくてはいけないので、今迷っているところである。

釣り堀も良いと個人的には思っているが、それに対する不安も片方ではあるので、地域の意見をよく聴きながら検討していきたい。

**【仲田会長】**

他に意見等はないので、終了とする。

今後もこういう機会はあると思うので、一つ一つ前に進んだら、その都度、皆さんからご意見をいただければと思う。

— 高田河川国道事務所、河川海岸砂防課 退室 —

次に、「その他」について事務局へ説明を求める。

**【中村センター長】**

・「地域協議会に関する意識調査」結果の送付について報告

**【小池係長】**

次回の協議会についてだが、現在、諮問等の案件はないので、会長と日程調整させていただき、決まり次第、皆さんへご連絡させていただく。

**【仲田会長】**

・会議の閉会を宣言

**9 問合せ先**

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : [hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp](mailto:hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp)

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。